

6年国語 一枚指導案集 「海のいのち」立松和平作

①場面「父もその父も～変わらなかった。」

本時の目標

- ・ 太一が、祖先が深いつながりを持ってきた大好きな海に住んでいることを知る。
- ・ 太一の父がもぐり漁師として海の恵みに生かされてきたことを大切にしていることに気づく。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>・①場面を読んでください</p> <p>・登場人物は誰ですか。</p> <p>太一とおとうはどこに住んでいたの。</p> <p>母親たちは住んでいなかったの？ 父親たちだけが表現されているということは… 「住んでいた」にはどんな意味が込められているのだろう。</p> <p>太一はそんな海のことをどう思っていたのですか。</p> <p>どんな表情でもって？</p> <p>どんな海も太一は好きだったということですね。 太一にはもう一つ大好きな…</p>	<p>自分から立って読もうとする児童がいるだろう。 指名された児童が音読(2～3名)</p> <p>太一 おとう(太一の父)</p> <p>海 父もその父も住んでいた。 その先ずっと顔も知らない父親たちも住んでいた。 先祖代々住んできたということ。</p> <p>母親たちも住んでいた。 住んでいたには別の意味が… 海で働いてきた。 海を仕事の場にしてきた。 海で生きてきた。</p> <p>季節や時間の流れとともに変わる海 のどんな表情でも好きだった。 晴れて太陽がまぶしい海 曇っていて少し薄暗い海 夕焼けがきれいに見える海 風が強くて波立っている海…</p> <p>おとうのこと おとうのことも大好き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分から音読にチャレンジしようとする姿勢を評価する。(5班に期待) ・ やる気を感じる具体的な評価をしながら指名するように心がける。 ・ 2人目以降音読希望者が増えるだろう。新たなチャレンジ児童の中から次の音読をする児童を指名。⇒次は1回目からの活躍を期待 ・ 「おとう」という表現が出てきたら、誰のことなのかを聞き返す。 ・ 「太一の父」という表現から出てきたら太一は何と呼んでいるのと聞き返す。 ・ 文章をまとめて読む形で答える可能性が高い。「父もその父も…」のところで切り「住んでいた」ことを確認。 「その先ずっと…」が続けて出てきたら「つけたし」として値うちづける。 ・ 「先祖代々」かそれに類似した表現が出てきたら「まとめた言いかえ」として値うちづける。 ・ 海と結びついて＝海を生業として住んできた…つまり海を仕事の場として生活してきたということをとらえさせたい。 ・ 海はどんな表情を見せるのか自由に出し合わせてみる。 ・ できるだけさまざまな海の表情を子どもたちなりの表現で出し合わせてみたい。そのために、出てきた表現全てに同意と共感を示して評価をしていく。

発問・指示等	児童の応答予想	教師の組織と対応(タクト)
<p>おとうはどんな人でしたか。</p> <p>どんな獲物をとっていたのですか。</p> <p>どうやって獲っていたんやろ。</p> <p>どれくらいの大物を獲ったりすることがあるんですか。</p> <p>珍しいくらいの大物をとった時に父はどんな態度をとるのですか。</p> <p>どうしてじまんしないのかをこの言葉から読み取れるかな？</p> <p>自分の力じゃないく海からのものと父が考えていることがわかるところが、もう一つありますね。</p> <p>②場面の予告 ある日、～なかったのだった。</p>	<p>もぐり漁師</p> <p>瀬の流れが速くて、誰にももぐれない瀬にたった一人でもぐる。</p> <p>もぐるのが上手。</p> <p>息が長く続く力がある。</p> <p>腕のいいもぐり漁師。</p> <p>他のもぐり漁師ではできないことでもできてしまう。</p> <p>岩かげにひそむクエ</p> <p>「ついてきた」と書いてあるからクエを何かで刺して獲ってきたと思う。</p> <p>銚(もり)を使っていたんだと思う。</p> <p>クエは高級魚として調理される。</p> <p>クエ鍋が有名。</p> <p>白身の魚でそれでいてしっかりした歯ごたえが美味しいとされる。</p> <p>2メートルもある大物。</p> <p>「もある」ということはめったにそんな大きさのものは獲れない。</p> <p>「海のめぐみだからなあ。」とじまんすることもなく言う。</p> <p>自分がえらいのではなく海が大物を恵んでくれたと考えている。</p> <p>大物が獲れたのが海のおかげだと考えている。</p> <p>不漁の日が10日続いても、父は少しも変わらなかった。</p> <p>漁の結果がよくても悪くても父の態度は変わらなかったということ。</p> <p>人間の力で海から獲物を得ているのではなく海にめぐんでもらえてると考えるから同じ態度でいられる。</p>	<p>⇒「誰にももぐれない」という表現が出てきたところで、つまりどんなもぐり漁師なのかというところに話を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちなりの表現でおとうのもぐり漁師としての優れたところをさまざまな言い方で表現してほしい。 <p>そのために、ここでも出てきた表現全てに同意と共感を示して評価をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ついてきた」という表現から漁法を考えていこうとする発言があれば大げさに「文章から証拠」を見つける発言値うちづけて評価する。 「銚でつく」という漁法だけが先に出てきた時には「どの文章から」それがわかるのかを問い返していく。 「クエ」という魚について詳しい情報を持つ児童がいたら説明してもらう。(A,Nに期待したい) 「もある」という表現に引っかかって発言できる児童がいない時は(可能性大)こちらから問い返す。 <p>⇒「文章から証拠」の発言として値うちづけて評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ここでも子どもたちなりの表現で「海のめぐみ」ということについて考えて発言してくれることを期待したい。(発言に消極的なH,A, K,T, K,W…期待) <ul style="list-style-type: none"> 父の態度から読み取れる漁の成果に対する謙虚な姿勢を子どもたちが表現し切れない場合は教師が詳しく補足しておく。 この部分を子どもたちが発言できるかどうかというところでチャレンジの質を評価して伝えていく。